

キャラクター名
翔和 (トフ)

プレイヤー名

シンドローム	ブラム=ストーカー エンジェルハイロウ		ワークス	FHチルドレンC	カヴァー	FHチルドレン
	オプション		年齢	18	性別	女
覚醒	素体	衝動	妄想	初期侵食率	35 %	
出自	疎まれた子	経験	実験体	邂逅	欲望表:平穩	

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	25
肉体	1		0			1	行動値	21
感覚	5		0		4	9	(非装備時)	21
精神	2	1	0			3	戦闘移動	26
社会	0		1			1	全力移動	52

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵			射撃			RC	4		交渉		
回避	1		知覚			意志	1		調達		
運転:			芸術: <small>(知覚+1)</small>			知識:			情報: <small>(RC+2)</small>	2	
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
ナイフ(果物ナイフ)	射撃	9r-1	0	2		自分の皮膚を裂き出血させるために使用。
墜喰(ついでみ)(侵蝕11)		0				D尤+光の手+破壊の光+幻惑の光+鮮血の網+蝕む赤
(侵蝕10 邪毒なし)		0				D尤+光の手+破壊の光+幻惑の光+鮮血の網
		0				

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

所持品	
ナイフ (果物ナイフ)	
量産品(エンブレム)	

合計装甲: 0 合計回避: 0

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タリ	消費
実験体	P	N		
破壊の子	P	N		
母親	P 幸福感	N ○不安		
	P	N		
	P	N		
	P	N		
	P	N		

最大財産P: 2 残り財産P: 0

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果:	非オーヴァードのエキストラ化							
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果:	コスト分のHPで復活							
C:エンジェルハイロウ	2	2	-	-	-	-	-	
効果:	C値をLv.ぶん低下 上限3							
光の手	1	2	Xジャーリアクション	-	-	-	-	
効果:	【感覚】で判定可能							
破壊の光	2	2	Xジャー	視界	範囲(選択)	対決	-	
効果:	攻撃力+2の射撃 シーンLv.回 同エンゲ対象不可							
幻惑の光	1	2	Xジャー	視界	-	対決	-	
効果:	放心付与							
鮮血の網	2	2	Xジャー	視界	範囲(選択)	対決	-	
効果:	硬直付与 シーンLv.回							
蝕む赤	3	1	Xジャー	視界	-	対決	-	
効果:	Lv.と同ランクの邪毒付与							
マスヴィジョン	4	4+2	Xジャー	-	範囲(選択)	対決	100%	
効果:	攻撃力+ [Lv.×5] シナリオ3回							
ウサギの耳	★							
効果:	耳がいい							
かぐわしき鮮血	★							
効果:	鼻もいい これらは光る血の作用							
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								

翔和(トフ)

【パーソナリティ】
華奢で比較的身長な少女。オールバックにしている髪型とそれにより目立っている目つきの悪さが特徴的。外見通りに粗暴で学のない素振りをするが、どこか意識的にそう振舞っているようにも見える。一人称は「あたし」、二人称は「お前」など。
承認欲求が強く、自分を真に見てくれる存在、仲間・家族を求めている。
相手が自分自身ではなく自分の能力や役割に価値を見出していると感じるとヒステリックを起こす。両親と前所属セル“アイゴウ”の研究者たちはそれでひどい目にあつた。
現在身を寄せ合っている元“ラビッシュ・ピン”のメンバーは自分と同じようなはぐれ物ばかりであり、仮初めではあるかもしれないが精神的な平穩を得ることができている。
自分を見てもう手段として、「相手をナイフで刺す」ということを初めに覚えたため、今でも不安になるとこの行動を再現しようとする癖がある。これは親と初めて目が合ったのが刃を立てたときであったことが原因。

【衝動と欲望】
彼女の衝動は「妄想」……というよりは、過去の経験に裏付けられた悲観である。一番身近な存在であるはずの両親からすらも愛を受けられなかった彼女は、自分を見て、愛してくれる人に飢えており、またそんな人はどこにもいないという妄執を抱えてしまった。それゆえに彼女は「私を見ろ」という思いを込めて対象に危害を加え、相手の心に存在しようと励むのだ。持続的に苦しみを与える能力特性は彼女の衝動が反映されたものなのかもしれない。
そしてもう一つ、こちらは彼女自身も諦めている遠く届かない夢だが、一番の欲望は「ふつうの女の子みたいに暮らしたい」というものである。自分と対等に付き合ってくれる＝自分を見てくれる友達がいる、一緒におしゃれをしたり、お出かけをして遊びたい。幼少期に叶わなかった平凡と平穩への憧れが、今も心の底に絡みついている。まるで排水口の髪の毛のように